

科目ナンバリング		U-LAS01 20021 SJ38							
授業科目名 <英訳>		ヨーロッパ歴史・社会論基礎ゼミナールIIB Introductory Seminar on European Social History IIB				担当者所属 職名・氏名		人間・環境学研究科 教授 佐藤 公美	
群	人文・社会科学科目群			分野(分類)	歴史・文明(各論)			使用言語	日本語
旧群	A群	単位数	2単位	週コマ数	1コマ	授業形態	ゼミナール(対面授業科目)		
開講年度・ 開講期	2025・後期		曜時限	水5		配当学年	全回生	対象学生	全学向
[授業の概要・目的]									
本ゼミナールでは、歴史学の重要な古典的研究書とともに、それを超えてきた研究も精読し、多角的な視点から研究と向き合うことを学びます。併せてヨーロッパ前近代史研究に関する基本的な事項と、史料研究についての基礎的な知識を学びます。今回取り上げる文献はチャールズ・H・ハスキンス『十二世紀のルネサンス』（別宮貞徳・朝倉文市訳）と伊東俊太郎『十二世紀ルネサンス』です。 研究は新しい研究によって必ず乗り越えられてゆくものですが、研究書の中には乗り越えられて一層輝きを増す古典的名著があります。学説そのものは批判され、修正されても、時代時代に既存の歴史認識を大きく変えた研究には、広い視野と大きな問題意識、研ぎ澄まされた思考力、革新的方法、そして情熱があります。それは、常識に縛られず新しい研究を生み出すとはどういう事かを、自らの限界そのものによって読む人に示し続けてくれます。 未来は来し方を知る者の手にあります。乗り越えるべき対象と対話し、自らの歴史=血肉とした人には、必ず新たな、自分自身の学問を生み出す力が宿るでしょう。この古典再訪ゼミがその小さな一歩になれば幸いです。									
[到達目標]									
1. ヨーロッパ前近代史に関する研究書を日本語で精読し理解する力を身に着ける。 2. 専門研究文献の理解に基づいた議論を行い、適切な説明や問題提起を行うことができる。 3. 精読する文献に関連するヨーロッパ前近代史の基本的事項を理解する。 4. ヨーロッパ前近代史研究に用いられる史資料に関する初歩的な知識を身に着ける。									
[授業計画と内容]									
1. イントロダクション 授業の進め方の確認 取り上げる文献の概要と関連事項についての導入的説明 報告担当の分担 文献・資料の検索と収集の仕方案内									
第2回～第7回 チャールズ・H・ハスキンス『十二世紀のルネサンス』を読む 2. 第1章 歴史的背景・第2章 知的中心地 3. 第3章 書物と書庫・第4章 ラテン語古典の復活 4. 第5章 ラテン語・第6章 ラテン語の詩 5. 第7章 法学の復活・第8章 歴史の著述 6. 第9章 ギリシア語・アラビア語からの翻訳・第10章 科学の復興 7. 第11章 哲学の復興・第12章 大学の起源									
第8回～第14回 伊東俊太郎『十二世紀ルネサンス』を読む 8. 第1講 十二世紀ルネサンスとは何か 9. 第2講 十二世紀ルネサンスのルートと担い手									
----- ヨーロッパ歴史・社会論基礎ゼミナールIIB(2)へ続く ↓ ↓ ↓ -----									

ヨーロッパ歴史・社会論基礎ゼミナールIIB(2)

10. 第3講 シャルトル学派の自然学
11. 第4講 シリア・ヘレニズムとアラビア・ルネサンス
12. 第5講 アラビアから西欧へ
13. 第6講 シチリアにおける科学ルネサンス
14. 第7講 ロマンティック・ラブの成立 / 全体のまとめ
15. フィードバック

【履修要件】

高校で世界史を履修していることが望ましい。履修していない場合には、ヨーロッパ前近代史に関して高校世界史を履修した場合と同等の基礎的知識を持っている、もしくは自ら適宜修得する意志があること。

【成績評価の方法・観点】

平常点で評価します。報告と討論への参加の内容に基づき、上記到達目標を踏まえて総合的に評価します。詳細は初回授業で説明します。

【教科書】

チャールズ・H・ハスキンス（著）、別宮貞徳・朝倉文市（訳）『十二世紀のルネサンス：ヨーロッパの目覚め』（講談社（講談社学術文庫）、2017年）ISBN:9784062924443
伊東俊太郎『十二世紀ルネサンス』（講談社（講談社学術文庫）、2006年）ISBN:9784061597808

【参考書等】

（参考書）
授業中に紹介する
教科書以外の参考文献は授業中に随時指示します。

【授業外学修（予習・復習）等】

文献の予習は必須です。参加者は全員が毎回の章を事前に読み込んで臨んでもらいますが、報告担当者は特に十分な時間をとって準備しレジュメ等の資料を作成してください。また随時紹介・配布する資料や文献にも目を通しておくことが望ましいでしょう。

【その他（オフィスアワー等）】

卒業論文に向けて専門研究を進めてゆけば、やがて最新の研究書や論文を次々に読んでゆく忙しい大学生活が待っています。しかしすべての新しいものの根は古典にあるのです。今こそ古典的研究をじっくり読み、議論しましょう。

また、古典的名著には必ず専門分野を越えた意味があります。文系、理系、専攻を問わず、時間に鍛え抜かれた古典と一緒に向き合うことから得られるものが必ずあるはずです。自ら関心を広め、積極的に臨んでください。

【主要授業科目（学部・学科名）】